

新たな広聴の仕組み実践プロジェクト第3回検討会

平成 19 年 9 月 18 日 19:00 から 21:00

参加者：浦田(特定非営利活動法人いせコンビニネット)、米山(松阪市市民活動センター)、中盛(W.T.Aまちづくりセンター)、岩脇(津市市民活動センター)、辻(広聴広報室)、川村、大山(サポート委員)、松野、明石(NPO室)

前回のふりかえり

- ・ 前回の意見の整理と確認
レクチャー(新百人委員会(仮称)の検討の状況)
- ・ 新百人委員会の検討の中で「本音でトーク」で出た意見を整理して県政に反映させていくという意見が出ている。
- ・ 新百人委員会と本音でトークの関係についても注視しながら検討していく。

仮説と効果

- ・ 実験事業の仮説と効果について説明
仮説1：民らしい雰囲気づくりで参加者の気持ちが和むのではないか。
仮説2：議論型運営を行うことで、県民の県行政への理解度が高まり、また、県行政の県民理解度が高まるのではないか。
仮説3：参加型運営とし、旗揚げ方式や、知事からの課題提示など、双方向で進めることで、参加者と知事の満足度が高まるのではないか。
仮説4：発言できなかった意見を個別に聞く機会を設ける等、当日回答できなかった意見への事後のフォローを行うことで、満足度が高まるのではないか。
仮説5：参加者アンケートをもとに仮説を検証する。従来のアンケート回収率は3割であるので、書く時間を設けるなどの配慮で回収率を上げることも必要。
- ・ それぞれの仮説について、課題を明確にする。
- ・ 成果が測れる具体的な指標が必要である。従来の「本音でトーク」では、参加者数、意見数といった量的な指標と、アンケートによる満足度といった質的な指標を使ってきたが、今回は議論を深めるよう検討しているので、質的なものに焦点を絞ってアンケートを行い、民間による運営で課題がどこまで解決されたかを検証する。
- ・ 当日の運営だけでなく、意見がどう検討され、県の施策にどう生かされたのかを含めた参加者満足度を測る指標も必要である。

実験事業素案

- ・ 実験事業の進行素案を説明

意見交換

- ・ コーディネーターとアドバイザーの役割分担を明確にする。
- ・ 知事の県政報告の時間、参加者の発言時間、知事の回答時間の関係を見て、参加者の

発言時間を確保し不満足感が残らないようにする。

- ・ コーディネーターやアドバイザーを入れることで、参加者の発言時間が短くならないよう配慮する。
- ・ 中・高校生の参加は、時間設定が難しいようなら再検討する。
- ・ 議論する意見は、事前にもらった意見を対象とし、当日の意見は議論の対象としない。
- ・ 舞台の上ではなく、講堂の中央で知事を囲んで座る形にする。

次回

10月31日19:00～